

第2回静岡市文化振興審議会

日時:令和7年8月26日(火) 午後2時00分～

会場:静岡市産学交流センター B-nest 7階 会議室1

次 第

1 開 会

2 議 題

静岡市文化振興計画 前期実施計画 令和6年度事業実施評価 総括書について

3 事務連絡

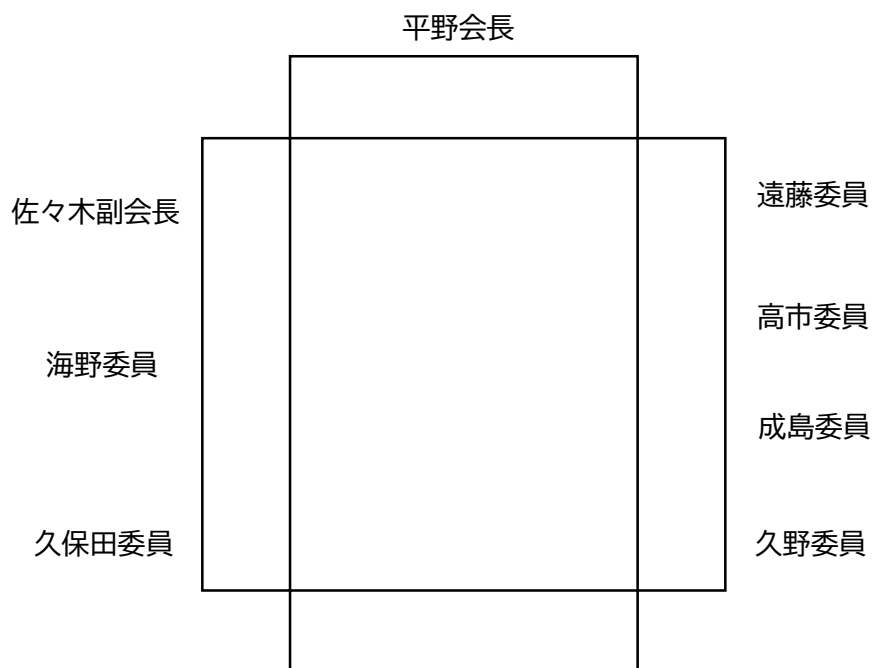
4 閉 会

第2回 静岡市文化振興審議会

令和7年8月26日(火)14:00 から

静岡市産学交流センター B-nest 7階 会議室1

伊藤委員
(Zoom 参加)



静岡市
文化振興
財団
(2名)

文化振興係長 文化政策課長 文化振興係職員

施設係

文化政策課 課長補佐

芹沢銈介美術館

まちは劇場推進係長

傍聴席

入口

令和6年6月～令和8年5月

静岡市文化振興審議会 名簿（役職・五十音順 敬称略）

役職	氏名	役職等	出欠
会長	ひらの まさひこ 平野 雅彦	元静岡大学 特任教授・客員教授	○
副会長	さ さ き まさゆき 佐々木 雅幸	大阪市立大学名誉教授 一般社団法人創造都市研究所代表理事	○
委員	いとう かおり 伊藤 香織	東京理科大学 創域理工学部 教授	○ (Zoom参加)
委員	うんの としひこ 海野 俊彦	静岡市文化協会 会長	○
委員	えんどう じろう 遠藤 次朗	特定非営利活動法人 アートコネクトしずおか 理事	○
委員	くぼた ゆたか 久保田 隆	静岡商工会議所 観光・飲食部会部会長 (株)浮月 取締役会長	○
委員	たかいち よしゆき 高市 純行	静岡市美術館館長	○
委員	なかやま えり 中山 絵理	市民委員	×
委員	なるしま ようこ 成島 洋子	(公財)静岡県舞台芸術 センター芸術局長	○
委員	ひさの たかこ 久野 貴子	市民委員	○

基本目標	4つの視点		評価できる点	改善すべき点・今後の事業に期待すること
歴史に彩られた個性豊かな文化の創造	文化をはぐくむ人づくり	多様な選択肢の提供	◆まちかどコンサートやまち劇スポットは、まちなかや市民に身近な施設等のオープンスペースにおいて誰でも気軽に質の高い文化に触れることができる機会を提供しており、高く評価できる。文化施設の物理的・経済的バリアを低減するだけではなく、開催場所を工夫することで、周辺施設の来館者増や客層の新規開拓などに繋げていきたい。	◆親子コンサート事業は、幼少期からの文化体験を提供する事業であり、長期的視点での文化振興策として意義があると感じている。一方で、市内文化施設において、親子室の設備が充実している施設が少ない。音響設備を含む技術的仕様の向上と、利用者のニーズに応じた空間設計が必要である。
		シビックプライドの醸成	◆「ラウドヒル計画」のような市民参加型舞台公演事業は、世代や障がいの有無を超えて多様な市民が参加し、舞台創造を体験する貴重な実践の場として、高く評価できる。“市民が主役”となるモデル事業でもあり、「まちは劇場」施策の一つの象徴とも言える取り組みである。	◆「お茶の学校」のような文化資源や地域資源における人材育成事業は、参加人数の多少ではなく、事業の質や参加者の熱意において評価し、継続して啓発していく仕組みが必要である。市民のみならず県外からの移住者が静岡市の魅力に触れ、継承者として関わっていただけるような土台づくりに期待したい。
	文化がはぐくむ地域づくり	地域の魅力向上	◆静岡市歴史博物館の「江戸東京博物館展」は、Quizknockとコラボした内容で、徳川家康公の築いた江戸の文化と街並みをクイズ形式で分かりやすく学べる好企画だった。日頃、館に足を運ばない層や歴史に興味関心の薄い人の来館に繋がるよう、他分野とのコラボを積極的に行ったり、施設の一部を開かれた会場として活用するなど工夫した取り組みを継続していく。 ◆令和元年度からスタートした「静岡市プラモデル化計画」は、官民連携による地方創生事業として「プラモデルのまち 静岡」を全国にPRとまちなかの活性化に大きな役割を果たしており評価できる。プラモデルの増設も順調に進み、2024年までに数々のデザイン・広告賞を受賞していることから、今後も効果的な取り組みを継続していく。	◆「静岡まつり」、「清水みなと祭り」、「安倍川花火大会」、「大道芸ワールドカップ」などは、天候に左右されることもあるが、静岡を代表する市民イベントである。今後、異常気象の影響を受けるイベントは益々増えて行く可能性が高いが、入場者数に一喜一憂することなく、安定した開催に向け地元や企業の協力を得ながら継続していくことを期待する。 ◆史跡久能山保存修理事業や史跡小島陣屋敷保存整備事業など文化財の整備に関する事業が進んでいるが、整備完了後は、文化財としての価値向上に留まらず文化観光としてのコンテンツとして、周辺を含めた活用方法を検討するなど発展的な取り組みを期待したい。
文化を活かした交流による活力あふれるまちづくり	文化でつながるまちづくり	誰ひとり取り残さない機会の提供	◆駿府匠宿は、観光、ショッピング、展示鑑賞ができる複合スポットとして、多くの観光客が訪れ、近隣に温浴施設もでき、エリアとしての魅力が増している。染色や竹細工、陶芸など駿河の伝統工芸を誰でも手軽に体験できる貴重な機会を創出している点が評価できる。	◆ストリートピアノは、公共空間への提供がメインとなっているが、「公園」や「屋外施設」のような「新しい楽しみ方」ができる設置場所やメーカーのプロモーションに繋がる常設の展示場所など変化に富んだ視点での展開を期待したい。また、保守の観点からグランドピアノのみならず音量の調節が可能な電子ピアノなど環境に柔軟に対応できる楽器の設置も検討していくことが望ましい。
		サードプレイスの増加	◆ストレンジシード開催事業では、見慣れた街の風景を舞台にしたパフォーマンスが繰り広げられ、サードプレイスの増加につながっている点が評価できる。	
	文化でにぎわうまちづくり	多様なにぎわいの創出	◆A級順位戦最終局は、駿府城・浮月楼・徳川家康公・名人戦というストーリーを結びつけ、徳川慶喜公ゆかりの浮月楼で開催することでイベントの価値を高めている。回を重ねるごとに市内・県内外の将棋ファンに浸透していることから、イベント参加者が周辺観光地を周遊できる仕組みづくりや同時期に開催している他のイベントと連携することで相乗効果を高める取り組みを検討していく。 ◆中勘助文学記念館や芹沢銈介美術館では、チラシの構成やビジュアルデザイン、企画内容の明確性などにおいて、市民や来訪者にとって魅力的な情報発信が実践されており高く評価したい。	◆海外プロモーション事業の戦略性については、現状、単なる「情報の発信」にとどまっている印象を受ける。単なる告知や紹介を超え、現地の文化的嗜好や産業特性に即したアプローチや現地クリエイターや文化関係者とのコラボレーション、共同企画による「共創的文化発信」が求められる。

全体評価

◆第2期静岡市文化振興計画 令和6年度事業実施評価に基づき、今後の文化事業の展開に求められる要素を以下のとおり整理して総括としたい。

①静岡市の多彩な資源の継承と担い手の育成に向けた取り組み

近年の気候変動や人口減少など変動する社会情勢の中で、静岡市に根付く地域のまつり・文化財などの文化資源や、地域の産業等における担い手を絶やすことなく継承していく取り組みが求められる。文化資源の活用と継承においては、地元や企業と協働し、新しい視点とアイデアで事業を展開していくことを期待したい。また、地域の産業等における担い手育成事業においては、地域資源の本質的な価値を大切に、市民のみならず県外移住者向けのPRやアーティスト・イン・レジデンス等を取り入れた効果的な実施方法を検討していくことが望ましい。

②他事業・他分野との連携による二次的効果の創出

昨今、文化は単に鑑賞するものではなく、地域課題を解決するひとつのツールとして、地域の特性やアーティストの創造力を取り入れながら事業を展開していくことが期待されている。静岡市においても1つの文化事業を多面的・多角的に他事業・多分野の取り組みと連携させることで、二次的効果を生み出すような仕立てを検討していくことが望ましい。